

平成28年度鶴城中学校

学校教育目標

**豊かな心と
確かな学力を兼ね備え
夢に向かって
逞しく生き抜く生徒の育成**

目指す学校像

- みんなが 来たいと思う学校
- みんなが 期待する学校
- みんなを 鍛える学校
- みんなの 記憶に残る学校

目指す生徒像

- 自他を大切に、心豊かな生徒
- 進んで学び、確かな学力を持つ生徒
- 健康に留意し、逞しく生き抜く生徒
- 地域と連携し、感動を与える生徒

本年度の重点目標

**夢と魅力がある学校づくり
伸びゆく生徒の育成**

「考えぬき」「信じぬき」「努めぬき」というとても分かりやすく覚えやすい校訓です。三つの実践により、激動の二十一世紀を逞しく生き抜いて欲しいと伝えたいところです。

今日という日は、今という瞬間は二度と戻ってきません。一日一日を大切に、懸命に勉強や運動に励み、友達と語らい、様々な体験を通して、自身を成長させて欲しいと願いました。あらゆるレベルを一段階上げ、誰もが認める素晴らしい学校を作り上げたいものです。

今年の鶴城中学校は、一年生十七名、二年生と三年生が十六名ずつ、合計は四十九名。先生方が二十一名、総勢七十名でのスタートを切りました。



太田道灌に学ぶ

鶴城中だより

文責 校長 船津 巧 No. 1

七重八重

花は咲けども山吹の

実の一つだに

なきぞ悲しき

太田道灌(どうかん)という戦国武将をこ存じだろうか。江戸城をはじめいくつかの城を建てたことで有名である。彼には、次のようなエピソードもある。

ある日、鷹狩りに出かけたところ、途中から雨が降り出した。雨宿りをしたお百姓さんの家で、その娘さんに当時の雨具「蓑(みの)」を貸して欲しいとお願ひしたところ、その娘さんは、家の裏

へ行ったかと思うと、「七重八重……」という歌を添え、黄色い山吹の花を一枝持つてきた。城へと戻った道灌は、雨具を貸して欲しいと言ったのに、花を一枝持つてきた娘への不満を、家来に話した。

後に「実をつけない山吹」と「蓑の一つもない」ことをかけて歌にしたこの娘さんの思いを知り、自らの学のなきを反省し、その後は、より一層勉学に励んだそうである。

更に、二年前にノベル平和賞を受賞したマララ・ユスフザイさんは、国連での演説で、「二人の子ども、一人の先生、

一本のペンと一冊の本が、世界を変えることが出来る。教育こそがその解決策だ。教育が一番」と訴えている。世界には、学校もなく勉強したくても出来ないという人がたくさんいる。

二、三年生に始業式でこの二つの話をした。今、勉強できる環境があることに感謝し、友だちと協力しながら、互いに磨き合って欲しい。

鶴城中学校は今年も素晴らしい先生方が揃ったと思う。少人数だからこそできる教育を、保護者と一緒になり展開して行きたい。

入学式

十一日、幸村総務部長様や北原市議会議員様をはじめ、校区長様や民生委員様などたくさんの方の来賓のご臨席の下、第七十回鶴城中学校入学式を開催出来ました。新入生十七名および保護者の皆様誠にありがとうございました。

